

# 西東京市グループインタビュー実施結果（抜粋）（1/3）

グループテーマ	A. 高齢者の地域生活支援を行っている団体 ＜田無たすけあいワーカーズそよかぜ・至誠学舎東京＞		B. 認知症高齢者と家族に対する支援を行っている活動団体 ＜おひさまカフェ・西東京ゆとりの会・サポートハウス年輪（書面にて）＞		
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人材不足・確保」、あるいは「次世代の担い手育成」が課題として大きい</li> <li>元気高齢者や単身男性に向けた、参加するサービスやそのメニューについて、魅力度や認知度のアップが求められている。</li> <li>介護保険制度や、その中で提供されるサービス、それらサービスを担う介護従事者（特にヘルパー）の役割などへの、より一層の利用者への啓発が求められている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアも含め、活動を支える「人材の確保や発掘」が課題として大きい。</li> <li>活動拠点の場所を保有しない団体では、活動場所となる「会場のとりにくさ」が挙げられる。</li> <li>介護する家族を支援する団体では、同様の活動団体が増えたことによる新規会員の減少と既存会員の高齢化が指摘される。</li> <li>介護家族力の脆弱化などに伴い、さらなる家族介護者への支援強化も望まれている。</li> </ul>		
前回と比べて	<ul style="list-style-type: none"> <li>西東京市では、以前に比べると、認知症の医療の受け入れや介護施設との連携は進んでいると感じている＜至誠学舎東京／他同意＞</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症に関する啓発、カフェやサポーター講座、家族へのサポートの強化は引き続き要望されているが、今回は、情報提供だけでなく、「認知症のご本人の活躍の場」の重要性の指摘や、「地域住民とのふれあい機会」への要望など、更なる認知症対応に関する課題の深化がみられた。</li> </ul>		
対象団体	田無たすけあいワーカーズそよかぜ	至誠学舎東京	おひさまカフェ	西東京ゆとりの会	サポートハウス年輪（書面にて）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互扶養を基本とする訪問介護の事業所。介護保険ではカバーできない通院の付き添い、庭の草取り、使っていない部屋の掃除などを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンメール尚和と緑寿園を中心として、重度介護度向け特養と、認知症や重度の方向け通所介護、ショートステイ、一般通所介護、居宅介護支援、訪問介護、地域包括支援センターがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おひさまカフェ」は、家族支援や認知症を知ってもらおうことを含めた、認知症のご本人がスタッフとして活躍できる場所を提供するカフェ。（社会福祉法人 東京老人ホーム運営）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ゆとりの会」は、認知症患者の家族を支えるために、会員同士のピアカウンセリングを中心に、懇談と情報交換の活動。及び、毎月会報を発行している。（定例会を毎月第2水曜日午後1時半から3時半まで）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険サービス（ケアプラン、訪問介護、認知症デイ、グループホーム）、地域の居場所カフェ「絆」の運営（配食サービス年輪弁当なども）。東京都のモデル事業、西東京市の試行事業（「ナイトホーム」の実施など）</li> </ul>
現状と課題	<p><u>＜人材不足・確保＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルパーの人材不足は大きな問題。市がせっかく研修を行っても就労につながらないのでは意味がない。</li> <li>人材確保は課題。地域活動はボランティアになるので若い人が魅力を感じない。そこに対価を付けることは難しい。</li> </ul> <p><u>＜人材の育成・将来の担い手育成＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の担い手がいない。5年、10年先の持続が難しい</li> <li>世間では「大変で報酬が低い」という印象だが、介護の仕事の魅力は次の担い手である若い人たちに伝えないと行けない。日々の仕事に追われてしまい、我々だけでは伝えきれない。</li> </ul> <p><u>＜元気高齢者はサービスを好まない＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元気な高齢者は、デイサービスなどは「自分達向けではない」と思って利用に踏み出せないケースも多い。新しい何かが必要。</li> </ul>	<p><u>＜人材不足・確保＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手を尽くしているが、新卒の応募は少ない。事業所内保育園開設による子育て中職員の復職や、新たな応募につながる取り組み（働く母親たちとつながりを持つなど）、職員全体が名刺を持って福祉の魅力を伝えながら採用につなげるよう取り組んでいる状況。</li> </ul> <p><u>＜人材の育成・将来の担い手育成＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今やっている事業をつないでいく次世代が育っていない。人の育成には時間がかかるが、将来的な担い手がいない。</li> <li>次世代の担い手育成のために、事業所内に保育園を立ち上げたり、若い世代にやりがいのある仕事だと伝えようとしているが、日々の仕事に追われてしまい、我々だけでは育成できない。</li> </ul> <p><u>＜元気高齢者に魅力的なメニューでない＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元気高齢者にとって、デイサービスのメニューが魅力的かという問題もある。</li> </ul> <p><u>＜単身男性への対応が課題＞</u></p>	<p><u>＜スタッフ（認知症本人の方）が増えた場合の対応／月1回のみの開催頻度＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在は1回あたり1時間半の開催で問題ないが、今後スタッフ希望の方が増えた場合の対応や、現状、サポートする職員の状況からすると、月1回程度の開催が限界なので、今後、回数を増やすとくるであろうことが課題。</li> </ul> <p><u>＜地域との繋がりを強化／地域のボランティア参加者増＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域との繋がりを強化してボランティアの参加なども増やしたい。認知症サポーター養成講座の講師を包括が行っているので、できれば同一法人に系列の包括があればもっとやりやすいのではないかと思う。</li> </ul>	<p><u>＜会員の高齢化と新規会員の減少＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規会員が少なく、介護卒業生の参加者が多くなって、その高齢化が進んで世代交代が進まないこと。他にも活動団体が増えてきていることがその要因。</li> </ul> <p><u>＜会場確保＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会場が取りにくい。地域によっては取りやすい会場もあるようだが、自分達の活動エリアでないと参加者の利便性が悪い。</li> </ul> <p><u>＜高齢者会員の自転車来場が危険＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通（バス）の便が悪い地域（田無～保谷間）などがあり、高齢者会員の自転車利用が危険。</li> </ul>	<p><u>＜人材不足・確保＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護人材の確保に苦慮。特に在宅を支えるホームヘルパーの確保は厳しく、職員の高齢化もあり、今後の人材確保が大きな課題。</li> </ul> <p><u>＜在宅サービス中心の団体運営が厳しい＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅期間が短くなっているため、在宅サービス中心の団体の運営は厳しい。</li> </ul> <p><u>＜家族介護力の脆弱化／支援不足＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護家族の生活環境が厳しくなっていて、家族介護力の脆弱化が顕著。</li> <li>介護保険サービスは家族介護を前提に作られているサービスであり、現状と合っていない点が必要な課題。家族介護者への支援が乏しい。</li> </ul>

	<p><b>&lt;介護保険やヘルパ-/サービスの役割啓発&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険の内容について、利用者をはじめとした世間はあまり知らない。生活支援は、きちんと勉強したヘルパーが生活を見守る、単なるお手伝いではないという点をもっと啓発する必要がある。</li> <li>男女問わず、他人が家に入ることを嫌がって訪問サービスを拒む人もいて難しい。</li> </ul> <p><b>&lt;認知症・障害者のヘルパ-対応は課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症や障害者への対応は、訪問するヘルパーは知識がないため対応に苦慮することもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単身になると、男性は家から出ない傾向があり、日常生活に支障も増える。</li> </ul>			
<p><b>今後の事業・施策のあり方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未利用者(まだ早いと思っている)向けにサービスメニューの認知を高めるための取り組みが求められる(見学ツアーなどを実施)。</li> <li>元気なときにサロンなどで社会と繋がって、介護保険制度などへの知識を得ることが将来的に役に立つので、元気な高齢者のボランティアの機会を増やすための取り組みが必要。</li> <li>本当は子育ての終わった若い方がいいが、仕事を退職したら地域でボランティアとして活躍してもらえるようにしていく必要がある。</li> <li>介護の職場に、介護従事者が、働く仲間とコミュニケーションをとれる環境も必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだ早いと思っている方でも参加できるサロンはあるので、様々なメニューがあることを事業者など関係者間で周知することも必要。</li> <li>講座などの情報は、本人には届かないこともあるので、家族やヘルパーに認知して貰うためのアプローチが必要。</li> <li>仕事を定年退職したら、是非ボランティアに関わって欲しい。</li> <li>介護従事者が働くためのハード面は、あまり何も考えられてこなかったと思うので、横になって休んだりできる職員向けのスペースなどを設ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の方と直接ふれあえる機会を提供することが、世間の認知症の捉え方や印象に良い変化をもたらせることにつながるという。(実際に、カフェに来店する子供達の印象も変わってきているように感じられる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が将来利用することを考えると、デイサービスの内容も少し考えてくれたらいいのと思う。みんなで紙風船をするより、認知症の方ご本人でも「何かできる」と思えるような活動などを行う方がいい(男性は特に行きたくない)。</li> <li>高齢者の身近なところに、もっと気軽に集まれる場があるといい。(例:リヴィンの中の自販機コーナー、遊歩道にベンチがあればいい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアを担う人材の確保と育成を市として取り組む必要がある。(例:市が実施した研修の資格取得者へのフォローアップ研修、事業所とのマッチングの機会を作るなど)</li> </ul> <p><b>&lt;支援団体として出来ること&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な PR 活動や、無資格者でもできる仕事の提供を行う。</li> <li>認知症状のある家族を介護している家族への支援は急務。あらゆる機会や場所(駅前スーパー、病院、薬局、コンビニ、美容院などなど)を活用して情報提供、相談体制を全市で網羅する。</li> <li>認知症カフェや家族会を通じた家族の支援や、認知症サポーター養成講座の開催に努める。</li> <li>積極的な認知症サポーターのボランティア受け入れを行う。</li> <li>実践して効果があった情報を他団体と共有していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(西東京市の介護保険事業計画には大変な数の施策)やりきれぬのか。</li> <li>くらしヘルパー研修を修了しても 10%しか就業しないことをもっと重く受け止めて、改善して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西東京市の介護保険事業計画には大変な数の施策が載っているが、それぞれの事業は必要だと思うが多いのではないかな。</li> <li>社会福祉法人と市をつなぐ役割がどこかに欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉法人も一緒になって、地域に密着した支援体制の構築を検討して貰えればありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の家族会の話し合いの場に、包括や行政、ケアマネジャーや施設スタッフなどの専門職が入ることは有益。</li> <li>「知って安心、認知症ガイドブック」(冊子)は 3000 部しか刷らなかつたが、分かりやすいので各戸に配るといい。</li> </ul>	<p><b>&lt;住民に望まれること&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護・福祉への関心が持てる機会を隣近所、サークルで持ち自分の出来る範囲でのサポートに取り組む。</li> <li>自分の生き方、最期の過ごし方への関心を持つ機会を作ったり、情報や知識を得る自助努力は必要。</li> <li>特に、認知症への理解を深める。</li> </ul>

## 西東京市グループインタビュー実施結果（抜粋）（2/3）

グループテーマ	C. コミュニティの活性化やボランティア活動を行っている団体		D. 高齢者の見守り活動団体		
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>「会場確保」「人材確保」「後継者の育成」が大きな課題。</li> <li>団体としては、人材発掘のきっかけとなる講座などの「活動テーマ」の魅力度アップが必要とされている。</li> <li>ITによる活動を行っている団体からは、「高齢者のITリテラシー向上（普及）が、生活の質を上げる可能性」の指摘があり、そのためにもIT支援団体が使用できる「学習スペースとしてのITルーム（通信環境・機材）」の設置（復活）が望まれた。</li> <li>自治体活動などが下火となる地域がある中で、高齢者と地域の「つながり強化」が、今後の方向性として求められている。</li> <li>ミニコミ誌を作っている団体からは、「高齢者のためのガイドブック」を市民の手で作ることも提案された。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り活動において、個人情報などの制限によって対応できない場合については、それをカバーするための何らかの仕組みの構築が求められる。</li> <li>「引きこもり高齢者」への対応策の強化も求められている（男性向けの場所づくり／呼びかけの工夫など）。</li> <li>「ささえあい訪問協力員」の見守り活動については、市民からの申請による利用になるため、利用者側の特に家族のサービス認知が必要とされた。</li> <li>「見守り」自体は、地域の市民の力も必要なことから、「ささえあい訪問協力員やほっとネット推進員といった活動の周知」や、「子供の頃からの高齢者との関わりの大切さ」「担い手として、高齢者には早いうちからボランティアなどに関わって“お互い様”感覚を育ててもらおう」といった、市民力強化の重要性が指摘された。</li> </ul>		
前回と比べて	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT関連については、引き続き「機材」や「通信環境」などへの支援が求められている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の情報（サロンの数や場所など）は知りたいので、新しく出来た写真入りパンフレットは好評＜全団体＞</li> <li>「認知症サポーター養成講座」や子供達向けの講座は、市民力の底上げにつながると思う。＜ほっとネット推進員＞</li> </ul>		
対象団体	きらっとシニア倶楽部	西東京市 NPO 推進センター セブロス	西東京民生児童委員協議会	ささえあい訪問協力員	ほっとネット推進員
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>きらっとシニア倶楽部はシニアかわら版・西東京「きらっと☆シニア」を発行。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セブロスの活動は、企画、支援、情報、福祉、IT をキーワードに、メールによる高齢者見守りやパソコン勉強会等の実施、地域の NPO 育成。</li> <li>メールによる高齢者の見守りをやっている「リボンネットワーク」もその一つ。これまでに 10 団体が独立している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西東京民生児童委員協議会は高齢者、認知症の見守り活動に加えて、最近小学生、中学生の不登校と虐待の見守りが増えている。活動範囲は広い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>申し込みのあった高齢者に対し、週に1回、もしくは月に1回の訪問による見守り活動を実施。</li> <li>担当する人数は人によって違う。（今回の参加者は、1名、4-5名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほっとネット推進員は、何か地域で見つけたらそれを情報として社協や包括につなぐのが仕事。</li> </ul>
現状と課題	<p>＜人材の育成・将来の担い手育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の担い手となる人材の確保が課題。</li> <li>後継者確保は、80代の自分達上層部にとっては深刻な課題。</li> </ul> <p>＜新たに魅力ある新聞の特集テーマ設定が必要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人材の募集という面では、もう少し何かミニコミ誌づくり以外の活動内容があるといいのではないかと思っている。</li> <li>新聞の特集テーマが出尽くした感がある。</li> </ul> <p>＜会場確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会場確保は、もう年々窮屈になっている。競争率がすごい。</li> </ul>	<p>＜通信環境や機材面での支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者のITリテラシー向上の手伝いをしていきたいが、通信環境や場所、機材の確保などの面での支援が欲しい。</li> </ul> <p>＜会場確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一は「場所の確保」が課題。市民団体が増えて、場所の確保は難しくなる一方である。</li> <li>特に駅の近くは大変。空き家や廃校になった小学校などを、うまく市民団体に貸して欲しい。併せて、拠点にできるような、事務所スペースがあったらいい。</li> <li>企業から場所の提供を受けていたが、売却されて使えなくなり困っている。</li> </ul> <p>＜人材確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の課題は「人材確保」。ボランティアポイントなど、簡単な謝礼になるようなモノがあると、より動機付けや関心につながると思う。</li> <li>交通費くらいは出ないと、全くのボランティアでは難し</li> </ul>	<p>＜個人情報の難しさ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰が年金受給の対象かは分からないなど、個人情報の関係で、民生委員は連絡調整なので、関与が難しい点も感じている。</li> </ul> <p>＜引きこもり対応／特に独居・男性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引きこもりの独居高齢者を連れ出すことが大きな課題。特に男性は難しい。特に新規転入の場合、年齢も分からず、老人クラブにも誘えない。</li> <li>男性は、一番いいのは酒を飲むことだが、なかなか知らない人を誘うことができない。男性は行く場所がない。</li> </ul> <p>＜マンション住民と地域との分断＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会の加入率が下がっている。マンションはマンションの単位で独立してしまい、地域とのつながりが分断されてしまいがち。</li> </ul> <p>＜人材不足・確保＞</p>	<p>＜小さな困り事に対応できる仕組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見守りの点では、色々と制限が強くて動きが取りにくいことが課題。小さな困り事ぐらいなら自分たちで解決するか、そうでなければ、すぐに対応できる仕組みが欲しい。</li> </ul> <p>＜自己申請が増えないと広がらない＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ささえあい訪問協力は、利用者側（特に家族）が自己申請しないと協力員につながらないので利用が広がらないことが課題。</li> </ul> <p>＜協力員同士の情報交流＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市のささえあい訪問協力員同士が一堂に会することがないので、他の地区の協力員の活動が見えない。地域の情報が欲しい。</li> </ul> <p>＜長期休暇時の対応－利用者は必要としている＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正月など、役所や包括が長期休暇の時期ほど利用者はささえあいを必要として</li> </ul>	<p>＜個人情報の難しさ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>困り事が個人情報なのでやみくもに社協に相談できない。相談する側も、ほっとネット推進員が近くにいっても、個人情報が気になってなかなか相談出来ない様子。</li> </ul>

		<p>いのではないかと感じている。</p> <p><b>&lt;魅力ある活動テーマ設定が必要&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味のあるテーマの講座などが人を集めるには有効で、そこで勧誘することは人材確保につながりやすいが、テーマ設定によって、継続度や魅力度が変わってくるので、その辺の工夫がやはり必要。</li> </ul> <p><b>&lt;人材の育成・将来の担い手育成&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(他団体と同様に)後継者確保は、80代の自分達上層部にとっては深刻な課題。</li> </ul> <p><b>&lt;高齢者会員の自転車来場が危険&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場が少ないところでは、圧倒的に自転車がも多く、坂も多いせいか事故も多い。特に、田無～保谷間の移動手段が少ない。サロン等が増えても、歩いて行けない方をどうするかが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢制限などもあって、民生委員の担い手がいないのが悩み。</li> </ul>	<p>いる。</p> <p><b>&lt;男性が利用しやすい場所づくり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男性が表に出やすい場所、男性主催のサロンなどが必要。</li> </ul> <p><b>&lt;引きこもり対応&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引きこもり高齢者をどう支えるかが課題。そのためにもう一步踏み込んだ活動が出来ればいいのと思っている。</li> </ul>	
<p>今後の事業・施策のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会活動なども下火の中で、地域とつながりを作ることが必要。</li> <li>高齢者向けのガイドブック(暮らしの手帖的なもの)があるといいので、市民の手で作ってもいいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者のITリテラシー向上(普及)が生活の質を上げる可能性があるため向上への取組みが望ましい。</li> <li>市民は、何かの時のためにも、地域と自分との接点を積極的に作っておくことが必要。</li> <li>「ゆめこらぼ(協働推進センター)」の役割強化が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>75歳以上になると受けられるサービスの認知を高めるためには、後期高齢者の保険証が変わった際に、役所で説明するといった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問協力員は玄関から先には入っていけないので、その先をカバーできるネットワークが必要。</li> <li>独居男性を外へひっぱり出すためには、住まいを特定し、催しなどのイベント案内をポスティングするといった。</li> <li>高齢者への参加呼びかけには、「来て下さい」ではなく、技術や知識を持って「手伝って下さい」と呼びかけた方がいい。</li> <li>地域の担い手の育成には、早いうちからボランティアに関わって「お互い様」の感覚を育てることが必要。</li> <li>子育て世代でも、ささえあい訪問協力員やほっとネット推進員として活動している事例紹介は関心が高まるのではないか。</li> <li>市民自身も学んで、市民の力も底上げしつつ、支援が必要な人に情報やサービスを提供していくことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どものうちから高齢者と関わることも大切。</li> <li>高齢者を支える基本はやはり市民の力なので、近所やほっとネット推進員の連携など、地域全体を支えるためのネットワークが必要。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者へのIT普及に資するITルームの復活を考えて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣のスーパーが閉店して、坂が多い、交通手段がないといった、高齢者が買い物に苦労している地域がある(南町・富士町)</li> <li>「はなバス」に少しの路線変更を望みたい(団地の中を通過して欲しい)。</li> </ul>		

## 西東京市グループインタビュー実施結果（抜粋）（3/3）

グループテーマ	E. 地域活動団体		F. 生きがい支援・介護予防に関する活動を行なっている団体	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者（高齢者や介護者）の「身近に、もっとこういったカフェやサロンができて選べるようになること」「男性参加者を呼び込むことの難しさ（コツがいる）」などが共通の課題としてあげられた。</li> <li>「ケアラーズ・カフェ」については、基本は、家族介護者のために、介護者の負担への理解を啓発することが望まれた。</li> <li>こういった「集いの場」を増やすことを考えた場合、「空き家利用」などによる、活動場所の確保も要望されている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>65歳までの定年延長などの影響もあって、60代ではまだまだ現役世代が多い。「シルバー人材センター」では、会員の高齢化や入会率の低下、求人とのアンマッチなどが発生しており、活動の困難さが指摘されている。</li> <li>団塊の世代の増加と共に、「働く／生きがい」への価値観も多様化しており、従来の「シルバー人材像」とは少し違う変化が感じられている。今後はそれら多様な価値観に合わせた施策の対応が望まれる。</li> <li>複数の活動（ふれまち、ささえあい、ほっとネット）の連携の仕組みを作り、地域の課題を解決していけるようにしたい。</li> <li>住民が自分たちで地域課題の解決に関われるように、働きかけが必要である。</li> </ul>	
前回と比べて	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回参加団体（ほっと住吉）では、若年者の参加や世代交代が課題となっていたが、今回は、自己施設（自宅やレストラン）で活動しているため、違う観点での意見がほとんどであった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>前回、「シルバー人材センター」では、就業機会の不足が課題であったが、現在はそれよりも登録者の高齢化による紹介できる業務と求人とのアンマッチや、求人に対応できないケースも発生している。</li> <li>前回、「社会福祉協議会」からは、自主グループ活動の支援的要素が挙げられていたが、今回、地域活動拠点として、空き家の有効活用などで現在7カ所を設置したことで、複数の市民団体が活用するようになり、そこからまた新しい連携が生まれるという効果が出ていると認識されている。</li> </ul>	
対象団体	いこいなサロン（つかこんち）	ケアラーズ・カフェ「木・々」	西東京市シルバー人材センター	西東京市社会福祉協議会
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つかこんちは」は主催者個人の自宅を開放したサロン。第2火曜日と第4土曜日で、開始後6年。</li> <li>午前中は、女性だけの「ババランチ」、午後は男性も交えた「ちよい学」という勉強会。テーマは、制度のこと、医療の話、救急の知識など、毎回多岐に及ぶ。</li> <li>「ババランチ」で利用するお弁当は、自分が食事を作れなくなった時に、どこで何を調達できるかの情報提供を兼ねて発注先をいろいろ選んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアラーズ・カフェ「木・々」は、西東京・ワーカーズまちの縁がわ「木・々」で、午後から活動している介護者のためのカフェ。他にもこども食堂やサークル活動の場を提供</li> <li>昨年介護者支援の講座を4回開いたところ、その参加者が中心になって新しいケアラーズ・カフェも立ち上がっている（3カ所）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者に、就業を通じた社会参加、生きがいの促進を図るため、お小遣い程度だが、生活の補助となるような臨時・短期的で軽易が仕事を中心として会員に紹介。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉を進める立場で業務を担当。地域福祉に関しての中核的な役割。事業で言うと「ふれあいのまちづくり」事業や、高齢の分野では生活支援体制整備など。</li> <li>介護ボランティアポイント制度を介して、担い手となるような元気な高齢者に対する働きかけも実施。</li> </ul>
現状と課題	<p><u>&lt;身近にサロンが増えること&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近所の人に家の中の話をしたくない方もいるので、サロンが増えて、利用者が選べる必要がある。（両者同意）</li> </ul> <p><u>&lt;将来の担い手育成－自宅開放が課題&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の世代のスタッフを育てることは重要だが、自宅開放だとホストが倒れたら出来なくなることが課題。</li> </ul> <p><u>&lt;男性参加者&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男性に来てもらうのは難しい。男性は自分の存在価値が認められないと出て来ない（同性がいる、仕事=やることある）（両者同意）</li> </ul>	<p><u>&lt;ケアラーズ・カフェの周知&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者を集めるため、ケアラーズ・カフェを必要としている介護者（ケアラー）に、いかに周知するかが課題。</li> </ul> <p><u>&lt;身近にカフェが増えること&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近所の人に家の中の話をしたくない方もいるので、カフェが増えて、利用者が選べる必要がある（両者同意）。</li> </ul> <p><u>&lt;男性参加者&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男性に来てもらうのは難しい。男性は自分の存在価値が認められないと出て来ない（同性がいる、仕事=やることある）（両者同意）</li> </ul>	<p><u>&lt;60代の元気高齢者の登録減少と会員高齢化&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定年延長の影響か、仕事への意識の変化か、60代などの若い元気な高齢者の登録は減少傾向。会員は高齢化が課題。</li> </ul> <p><u>&lt;入会率も低下&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入会率の低下も問題（西東京市に限らず）。</li> <li>仕事の発注に対応しきれない時もある（景気が良い時は仕事があるので登録が減る傾向あり）。</li> </ul> <p><u>&lt;会員年齢と求人内容のアンマッチが発生&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員の年齢と求人の仕事内容と照らした時にアンマッチが発生（会員が高齢化しているので80歳以上は紹介しにくい仕事など）。</li> </ul>	<p><u>&lt;ワンストップで受け止める体制&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複合的な困り事や課題をワンストップで受け止められるような体制づくりが課題。</li> </ul> <p><u>&lt;複数の市民活動の連携を促すような提案&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民が自分達で地域課題の解決に関わるような働きかけと、複数の市民活動（ふれまち、ささえあい、ほっとネット）の連携を促すような仕組み作りと提案していくことが課題。</li> </ul> <p><u>&lt;将来の担い手の確保・育成&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生きがいづくり」の充実や推進には、元気な高齢者をいかに引き込むかが課題。担い手としても重要である。</li> </ul> <p><u>&lt;シルバー世代像の変化－60代は現役&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従来のシルバー世代のイメージ像が、少し年齢が上がって後期高齢者寄りになってきている（65</li> </ul>

				歳までの定年延長。60代はまだ現役。価値観も多様に)
今後の事業・ 施策のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家は台所もトイレもあるので色々使える。空き家を活用して欲しい。</li> <li>地域の中でまだカフェがないところに、空き家を利用したカフェなどがあるといい。</li> <li>本当に支援が必要な高齢者は読まない人も多いので、高齢者の担当課からの情報はすぐ分かるように「紙の色」を何色と決めて貰えるといい。</li> <li>高齢者は自分宛名のハガキは見るので、そこに行政がからんでいることを入れると安心感につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護する家族の負担を理解し、家族介護者を支えるためにも、介護は社会の仕事という意識を普及して欲しい。</li> <li>自分たちが色々な活動ができる、人が集まれる場所を行政に確保して欲しい。</li> <li>カフェの認知のために、少し、行政(市報など)が後押ししてくれると、来る方も安心して来られると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の賃金への意向や、生きがいに対する考え方など、多様化するシルバー世代像に併せて施策を考えていくことが求められる。</li> <li>提供しているサービスの紹介や、自分に合った地域活動のメニューが分かるような工夫(冊子など)も必要(両者同意)も必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者自身の「仕事／生きがい／対価」に対する考えに合わせた地域活動のメニューや役割の提案が求められる。</li> <li>提供しているサービスの紹介や、自分に合ったメニューが分かるような工夫(冊子など)も必要(両者同意)。</li> <li>担い手である元気な高齢者を意識してつかまえておく必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動手段は目の前の問題として大きい。せめて行政機関にはどこからでも行けるようにして欲しい。</li> <li>「はなバス」は20分に1本、せめて1時間に2本は走らせて、公的などところには停留所を作って欲しい。バスの乗り換えなど、案内看板はしっかり出して欲しい。</li> <li>交通手段の確保として、リタイア男性に自家用車輸送を、市内だけでもやって欲しい(両者同意)。</li> <li>市の高齢者企画は色々あって、似たような名前なので分かりにくい(ほっとネット・ホットほっとサロン等)。</li> <li>今は、社協、ささえあい、高齢課で、いいことだが似ていることを、バラバラにやっている印象がある。もっと一本化できたらいい(エリアなど)。</li> <li>講師料などの経費を行政が援助してくれると嬉しい。</li> <li>行政の中での専門家をもっと育てて欲しい。</li> <li>介護者がどこにどれだけいるか、何が必要かの調査もして欲しい(両者同意)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通手段の確保として、リタイア男性に自家用車輸送を、市内だけでもやって欲しい(両者同意)。</li> <li>会場費や講師料に予算を付けて欲しい。</li> <li>行政は、異動があるので、なかなか行政側の専門家が育たない。</li> <li>介護者がどこにどれだけいるか、何が必要かの調査もして欲しい(両者同意)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西東京市の高齢者像に関する情報提供をして欲しい(両者同意)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西東京市の高齢者像に関する情報提供をして欲しい(両者同意)</li> </ul>